

やさしく解説



# 浦賀奉行所



2020年  
浦賀奉行所  
開設  
300周年

2020 Foundation of URAGA  
Magistrate's Office 300th Anniversary

「浦賀湊蕃船漂着図」(国立公文書館所蔵)

# 浦賀奉行所ってなあに？

**浦**賀は徳川家康が江戸幕府を開いたころから、  
東京湾の中でも船が泊まるのに非常に良い港として知られていました。

戦いのない平和な時代が続き、江戸（現在の東京）に多くの人が住むようになると、大坂をはじめ、各地から船で江戸に

食糧や日用品が運び込まれるようになります。海から江戸へと向かう入口に位置する浦賀は、中継場所として栄えていきます。



▲江戸時代の浦賀の様子を描いた浮世絵  
広重画「山海見立相模 相模浦賀」（横須賀市自然・人文博物館所蔵）

港町として  
栄えた浦賀



浦賀奉行所の  
誕生



1720年、浦賀奉行所は静岡県の下田から移転

して誕生しました。奉行所は現在の市役所や

警察署、海上保安庁など多くの仕事を担いました。

## 浦賀奉行所の主な仕事

- 江戸に入る船の荷物や人のチェック
- 東京湾に向かってくる外国船からの警備
- 幕府の指揮による外国船の応接



▲浦賀奉行所 模型（浦賀コミュニティセンター分館所蔵）

昔の浦賀は港として栄えていたんだね！



# 一八五三年7月ペリー来航

1853<sup>ねん がつ</sup>年7月、ペリーはアメリカ大統領の  
※嘉永6年6月  
 親書<sup>しんしょ てがみ</sup>（手紙）を持って浦賀<sup>も うらが</sup>にきました。この時、  
 ペリーは奉行所<sup>ぶぎょうしょ</sup>で一番身分<sup>いちばんみぶん</sup>の高い「奉行」<sup>たか</sup>とし  
 か交渉<sup>こうしょう</sup>しないと決めていました。



▲ペリーを描いた絵  
 （横須賀市自然・人文博物館）

ペリーと最初に話し合ったのは、浦賀奉行所<sup>うらがぶぎょうしょ</sup>  
 の与力<sup>よりき なかじまさぶろうすけ</sup>の中島三郎助<sup>なかじま つうやく</sup>でした。中島は、通訳の  
 堀達之助<sup>ほりたつのすけ いっしょ</sup>と一緒にペリーの船に乗ろうとしま  
 したが、乗せてもらえません。

そのとき  
 奉行所は…



通訳  
 堀達之助の  
 機転



その時、堀<sup>ほり</sup>がとっさに機転<sup>きてん</sup>を利かせ、中島<sup>なかじま</sup>を「浦  
 賀<sup>うらが</sup>の副奉行<sup>ふくぶぎょう</sup>」と紹介<sup>しょうかい</sup>しました。当時の奉行所<sup>とうじ ぶぎょうしょ</sup>に  
 「副奉行<sup>ふくぶぎょう</sup>」という役割<sup>やくわり</sup>はありませんでした。

翌日<sup>よくじつ</sup>、中島<sup>なかじま</sup>と同じ与力<sup>よりき</sup>の香山<sup>かやま</sup>栄左衛門<sup>えいざえもん</sup>が一番身分<sup>いちばんみぶん</sup>の

高い「浦賀奉行<sup>うらがぶぎょう</sup>」だと言ってペリーと話し合<sup>はな</sup>いを始めました。香山<sup>かやま</sup>は  
 ペリー側<sup>がわ</sup>から信頼<sup>しんらい</sup>され、その後の話し合<sup>あと はな</sup>いは、香山<sup>かやま</sup>を中心<sup>ちゅうしん</sup>に進められま  
 した。

このように中島<sup>なかじま</sup>たちの  
 活躍<sup>かつやく</sup>により、ペリーは  
 久里浜<sup>くりはま</sup>に上陸<sup>じょうりく</sup>して、無事<sup>ぶじ</sup>  
 にアメリカ大統領<sup>だいてうりょう</sup>の親書<sup>しんしょ</sup>  
 を渡<sup>わた</sup>すことができました。



▲ハイネ画「ペリー久里浜上陸図」（横須賀市自然・人文博物館所蔵）

争<sup>あらそ</sup>いがおこることなく、親書<sup>しんしょ</sup>を渡<sup>わた</sup>せたんだね！



# 浦賀奉行所

うらが

ぶぎょうしよ

かんけい

# の関係のある主な人物

おも

じんぶつ

## ほり としたか 堀 利喬

さいご しもだぶぎょう  
最後の下田奉行として、

うらが ぶぎょうしよ いてん き  
浦賀に奉行所を移転することを決め、

しよだい うらがぶぎょう  
初代の浦賀奉行になりました。

## おおた すけのり 太田 資統



せん ごう たいほう う  
アメリカ船のモリソン号へ大砲を撃つ

めいれい おこな うらがぶぎょう  
命令を行った浦賀奉行です。

とうじ えど ばくふ いこくせん き う  
当時の江戸幕府は、異国船が来たら打ち  
はら ぜんこく めいれい  
払うことを全国に命令していました。

## はまぐち ひでもと 浜口 英幹

うらがぶぎょうしよ どうしん かんりんまる の  
浦賀奉行所の同心。咸臨丸に乗ってアメリカへ

※与力の下で働く役人

わた めいじ いしんご よこすか せいてつじよ はたら きじゆつしゃ  
渡り、明治維新後は横須賀製鉄所で働く技術者に

※造船所

なりました。



▲「万延元年遣米使節図録」より  
(国立国会図書館デジタルコレクション)

## とだ うじひで 戸田 氏栄

だい だいうらがぶぎょう  
第39代浦賀奉行。

かんたい くりはま じょうりく とき にほんがわ たいし  
ペリー艦隊が久里浜に上陸した時に、日本側の大使

めんだん のぞ  
としてペリーとの面談に臨みました。



▲戸田氏栄の胸像（ペリー記念館前）

## なかじま さぶろうすけ 中島 三郎助

うらがぶぎょうしよ よりき  
浦賀奉行所の与力。

らいこうじ さいしよ はな あ  
ペリー来航時に最初に話し合いを

たいほう ふね つく きじゆつ  
しました。大砲や船を造る技術に

すぐ 優れただけでなく、和歌や

はいく おこな ぶんかじん  
俳句も行う文化人でもありました。



▲中島三郎助招魂碑（愛宕山公園内）

